２０２１年度

事 業 計 画 書

公益財団法人
日本科学協会

目　次

１．方　　針　　1

２．事業計画

（１）科学振興のための研究助成と研究交流　　2

（２）国際相互理解促進のための図書寄贈と国際交流　5

（３）科学知識の普及・啓発　　8

１．方針

日本科学協会は１９２４(大正１３）年に、前身である（財）科学知識普及会として設立され、雑誌『科学知識』の刊行を通し、難解な科学を、多くの人々に少しでも解りやすく普及させることをそのミッションとしてきた。

２０２０年の冬頃から新型コロナウィルス感染症が流行し、人々の生活様式は一変し、人と人との関わり、社会の形が大きく変わろうとしている。ＩＣＴの活用によるテレワークや遠隔会議等、科学・技術の発展は、新しい社会への対応に不可欠となっている。また、将来にわたって人類が持続可能な社会を築くためには、科学・技術のイノベーションが必須であり、特に若手の研究者への支援は、これまで以上に重要になってきている。

一方、グローバル化や世界規模の感染症流行等により世界各国との緊密な連携・協力の重要性も年々高まっており、世界各国が価値観を共有し、より強固な連携を図っていく必要がある。そのため、日本の価値観の国際共有を図り、一体となって、社会問題に立ち向かっていかなければならない。

このような社会情勢のなか、日本科学協会は将来の担い手である「若手の育成」という理念のもと、「研究者の育成」「国際相互理解」をテーマに据えながら、引き続き「社会と科学をつなぐ」「日本と世界をつなぐ」という使命を果たすため、２０２１年度の事業計画を策定した。

（1）科学を担う人材の育成

科学に関する若手研究者の育成を図るため、３００件を超える科学研究に対する研究費の助成を行うとともに、研究助成の OB に対するフォローアップの強化等を通じ、研究成果の社会への発信に努める。また、専門化・細分化が進む研究者としての素養がバランスよく醸成できるよう各種研究会を主催し、社会が直面する課題の解決に活用されるよう、ウェブサイト等でその成果を広く公表する。更に、科学に対する好奇心旺盛な高校生を対象に、専門家が主にメールで個別指導を行うサイエンスメンタープログラムを実施する。

(2) 国際相互理解の促進のための図書寄贈や交流事業

世界各国の日本への理解を促進するため、日本に関する図書の寄贈を実施するとともに、隣国の中国との相互理解のため、中国の大学生等を対象とした日本に関する日本知識を競う大会の開催、日本や中国に関する作文コンクール等の各事業を実施する。

（3）科学の魅力を社会に伝える

本会が制作した「科学実験のデータベース」「立方体地球の動画」「生命科学の電子テキスト」等の科学に関する情報や教材、もしくは、本会が主催するイベント等を通して、科学の不思議や面白さを知ってもらう機会を提供し、子供や学生、一般の方等に対して、科学的素養の醸成を図る。

２．事業計画

（１）事業名「科学振興のための研究助成と研究交流」

科学研究の将来を担う若手中心の人材の育成と、その研究を奨励し併せて研究交流の推進ならびに研究成果の社会還元に努めることにより、科学振興のさらなる充実を図る。

【日本財団助成事業】

①　若手研究者の研究奨励

イ．学術研究助成

イ）実施内容：萌芽性、新規性または独創性のある他からの助成が受け難い研究に対して助成を行う。

ロ）募集方法：一般公募による募集

ハ）対象となる研究：人文・社会科学および自然科学（ただし、医学を除く)に関する研究
※各分野の中に「海に関係する研究」を含む

ニ）対 象 者：大学院生あるいは大学等の所属機関で非常勤・任期付き雇用研究者であって、３５歳以下の者（外国人留学生を含む）
※「海に関係する研究」は正規雇用者も含む

ホ）助成金額：約６５０千円／件（助成予定件数　２９０件）

②　特定分野の研究奨励

イ．実践研究助成

イ）実施内容：教育・学習・自立支援等を行う様々な組織・団体（ＮＰＯを含む）において、その実践の場における社会的要請の高い研究への支援と、質的向上を目指して助成を行う。

ロ）募集方法：一般公募による募集

ハ）対象となる研究

ａ．教員・ＮＰＯ職員等が行う問題解決型研究：
学校、ＮＰＯなどに所属している者が、その活動において直面している社会的諸問題の解決に向けて行う実践的な研究

ｂ．学芸員・司書等が行う調査・研究：
学芸員・司書等が博物館や図書館等の生涯学習施設の活性化に資するために行う調査・研究

ニ）対 象 者：専門的立場にある者（教員、学芸員、図書館司書、カウンセラー、指導員等）あるいは問題解決に取り組んでいる当事者など

ホ）助成金額：約２５０千円／件（助成予定件数　２０件）

③　研究助成の推進

イ）実施内容：研究分野の動向や研究環境の変化などを勘案した上で助成方針を定め、それに

即した募集および審査・選考を行い、本会独自の助成姿勢を示し研究助成の意義を高める。

ロ）２０２２年度「笹川科学研究助成」助成計画策定

ａ．募集要項、選考方針等の策定

ｂ．研究計画内容の評価ならびに審査・選考

ｃ．２０２２年度の研究助成計画の策定

ハ）笹川科学研究助成の研究成果の管理

笹川科学研究助成を受けた者（笹川助成研究者）から提出された論文別刷等研究成果の整備・保管

ニ）研究助成実績に関する資料の整備

「笹川科学研究助成」の実績についての分析および統計資料等の整備

④　研究成果公表支援

イ．海外発表助成

イ）２０２１年度助成

ａ．実施内容：海外研究集会（学会等を含む）において、研究成果の発表を行う研究者に対し、渡航費など必要な経費の助成を年４回に分けて行う。

ｂ．対 象 者：笹川科学研究助成を受けた国内に居住する研究者

ｃ．助成金額：約２００千円／件（助成予定件数　７０件）

ロ）２０２２年度募集周知および第１期助成計画策定

ハ）報告書の作成(創設 20 周年)

a．実施内容：海外発表促進事業の 20 年実施を契機にして、その果たしてきた役割を整理し、社会的必要性（貢献）を検証する。

b. タイトル：海外発表促進助成の実績と日本の科学研究の動向（仮）

c. 制 作 物：A４版　50 頁程度（予定）

d. 発行部数：2,000 部（暫定）

e. 配 布 先：若手研究者、研究助成に関心のある人たち、ＯＢ・ＯＧ、研究助成事業関係者

f. 活用方法：科学研究における本制度の価値（意義）への理解と関心を高めるための広報・宣伝用として活用する。過去の事象を正しく残し、今後の研究助成事業への指針の資料として活用する。

⑤　笹川科学研究奨励賞の選出

イ）賞の趣旨：単に研究の内容や成果のみに捉われず、研究に対する取り組み姿勢など笹川科学研究助成らしい視点も加えて評価し、表彰することによって若手研究者の研究意欲を高める。

ロ）対象件数：２０２１年度助成者のうち、学術研究助成から１４名以内、実践研究助成から２名以内

⑥　「笹川科学研究奨励賞」受賞研究発表会の開催

イ．「笹川科学研究奨励賞」

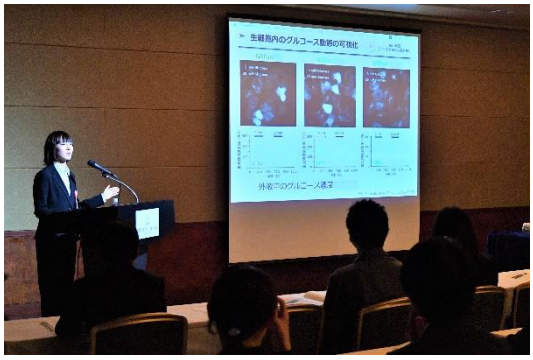
イ）対象件数：２０２０年度「笹川科学研究奨励賞」受賞者
１６名以内

ロ）表彰内容：賞状および副賞各１００千円

ロ．研究発表会の開催

イ）開催時期：２０２１年４月下旬（下記の「研究者交流会」と同日開催）

ロ）実施内容：「笹川科学研究奨励賞」受賞者による研究成果の発表と質疑応答



ハ）参 加 者：笹川助成研究者、指導教官、関係者など約３５０名

⑦　研究者交流会（研究奨励の会）の開催

イ．開催時期：２０２１年４月下旬

ロ．実施内容：助成決定の通知、来賓の挨拶、研究者の相談指導、研究者の相互交流

ハ．参 加 者：２０２１年度助成者（自由参加）、来賓、指導教官、関係者など約３５０名

【自主事業】

研究成果の社会への発信や、笹川科学研究助成を受けた研究者（OB・OG）のフォローアップ事業の充実のため、昨年に引き続き以下の事業を実施する。

⑧　研究成果発表会の開催

イ．開催時期：２０２１年９月（予定）

ロ．実施内容：笹川科学研究助成を受け研究者として活躍している OB・OG４～５名による研究成果の発表と質疑応答。昨年に引き続き海洋分野に関することをテーマとし、関心をもった企業に参加してもらう。

ハ．実施方法：企業を会員としている海洋関係の社団法人と連携して企業が関心を持ちそうなテーマで研究成果発表会を開催する。発表者は、OB・OG に公募し選定する。

事業費総額：２８９，６４０千円

【日本財団助成事業費　①～⑦】
２８８，２４０千円（事業費：２３９，４００千円、事業管理費：４８，８４０千円）
【自主事業費　⑧】
１，４００千円（事業管理費を含まず）

（２）事業名「国際相互理解促進のための図書寄贈と国際交流」

日本に関心を有する世界各国の学生、知識人、研究者等に対して、日本に関する図書の寄贈、作文コンクールの開催等を通じて日本に対する理解促進を図ることを目的とする。

【日本財団助成事業】

①　日中未来共創プロジェクト

日本国内で収集した人文・社会科学等の教育・研究図書を中国の大学等への寄贈、中国の大学生を対象とした「日本知識大会」、「日本研究論文コンクール」、中国及び日本の若者を対象とした各「作文コンクール」、さらに４事業に係る訪日・訪中プログラムを併せて実施することにより、将来を担う人材を育成し、日中相互理解の深化と友好関係の構築を図る。

また、2019 年度及び 2020 年度に実施を見送った中国の大学生等の各日本招聘、2020 年度に実施を見送った日本の若者の中国訪問を本年度分の日本招聘、中国訪問と併せて実施する。

イ．図書寄贈

イ）実施内容：各方面への協力依頼を通じて日本で図書を収集し、選定・調整のうえ要望に基づき中国の大学等に継続寄贈する。

ロ）図書の収集、寄贈

ａ．収集：８万冊/年

ｂ．寄贈：８万冊/年

ハ）寄贈対象：中国８５大学等

ニ）寄贈方法：中継寄贈システムにより集約寄贈

ロ．笹川杯全国大学日本知識大会

イ）実施内容：中国全土の大学の日本語学習者が一堂に会して日本知識や日本語能力を検証する機会となる日本知識大会を開催し、優勝者等を日本に招聘する。

ロ）参 加 者：中国全土の約１００大学の日本語学習者

ハ）日本招聘：優勝者等　合計４０名

（2021 年度分　２０名、2019 年度分　２０名）

※2020 年度は大会を実施していないため、招聘者なし

ハ．作文コンクール

イ）笹川杯本を味わい日本を知る作文コンクール（中国語版、日本語版）

ａ．実施内容：中国全土の若者を対象として、日本関係図書等の感想文を中国語或いは日本語で募集する各作文コンクールを開催し、優勝者等を日本に招聘する。

ｂ．共催機関：・上海交通大学図書館（中国語版）

・人民中国雑誌社（日本語版）

ｃ．応募資格：・中国の大学生（中国語版）※中国全土の大学図書館を窓口として募集

・１６歳～３５歳の中国国民（日本語版）

d．日本招聘：優勝者等　合計２９名

（2021 年度分　１０名、2020 年度分　９名、2019 年度分　１０名）

ロ）Ｐａｎｄａ杯全日本青年作文コンクール

a．実施内容：日本全国の若者を対象として、“中国”をテーマに日本語による作文コンクールを開催し、優秀賞受賞者等を中国に派遣する。

b．共催機関：人民中国雑誌社、中華人民共和国駐日日本国大使館

c．応募資格：１６歳～３５歳の日本人

d．中国訪問：優秀賞受賞等　合計４９名

（2021 年度分　２６名、2020 年度分　２３名）

ニ．新規関連事業等の企画・立案

【笹川科学活性化基金事業】

ホ．「笹川杯日本研究論文コンクール」

イ）実施内容：中国全土の大学の日本語専攻の学部生を対象に日本に関する研究論文コンクールを開催し、成績優秀者等を日本に招聘する。

ロ）共催機関：中国教育部大学日本語専攻教学指導分科委員会、中国日語教学研究会、吉林大学

ハ）応募資格：中国全土の大学の日本語専攻の学部生

ニ）日本招聘：成績上位　合計９名（上限）

（2021 年度分　４名（上限）、2020 年度分　３名（上限）、2019 年度分　２名（上限））

【日本財団助成事業】

② READ JAPAN プロジェクト

日本に関する多様な分野の厳選された英文図書を、世界の大学図書館、研究所等へ寄贈するとともに、寄贈対象図書の梗概等を web サイト、SNS 等で公開することにより、世界の広範な地域における日本理解の促進を図る。

イ．図書寄贈

イ）実施内容：厳選した１９５冊の日本に関する英文図書の梗概を web サイト、冊子等で公開するとともに、在外公館からの推薦、各大学図書館等からの申請を受領し、要

望に応じて寄贈する。

ロ）寄贈対象：世界の大学図書館、研究所等

ハ）寄贈図書の分野：5 分野

政治・国際関係、経済・ビジネス、社会・文化、文学・芸術、歴史

ニ）寄贈数量：１００～２００件/年（平均１５０冊/件）

ホ）寄贈方法：１９５冊の対象図書リストから選定された図書を受贈機関に寄贈する。

ロ．web サイト等を通じた情報発信

寄贈図書や日本に関する情報を、web サイト、SNS、事業紹介パンフレット等を通じて発信するとともに関係先等とのコミュニケーションを行う。

ハ．図書関係イベントへの出展、参加等

※本事業は、日本財団が 2007 年度から 2020 年度まで実施し、累計約 68,000 冊（1,066 件/138 ヶ国）を寄贈してきた図書寄贈事業（READ JAPAN PROJECT）を本会が本年度より引き継いで実施するものである。

事業費総額：３８８，９３０千円

【日本財団助成事業費　①イロハニ　②】

３８０，２８０千円（事業費：３１６，７３０千円、事業管理費：６３，５５０千円）

【笹川科学活性化基金事業費　①ホ】

８，６５０千円（事業費のみ）

（３）事業名「科学知識の普及・啓発」

高度な科学・技術社会を健全に維持するには、敬遠されがちな科学・技術への関心を高める必要から、次代の科学・技術を担う人材を育成し、難解となりがちな科学・技術を分かりやすく身近な形で一般に伝える事業を行い科学知識の普及・啓発に資するものである。

【モーターボート競走法制定４０周年記念基金事業】

①科学実験データベースの公開

身近な生活のなかの「科学」を「科学実験データベース」や「コラム」としてＷｅｂ公開し、同時に離島などで「科学実験」イベントを開催して科学・技術への関心や理解の向上に努める。

イ．実施内容：「科学実験データベース」や、自然や文化に関する話題を「コラム」として、Ｗｅｂサイトで公開し、また、離島などで「科学実験」イベントを開催する。

イ）「科学実験データベース」の新規追加と検索項目の設定：
既に公開されている「科学実験データベース」の追加と、利用の便を図るためにアイテムの選出を容易にする検索項目の設定と公開。

ロ）「コラム」作成とその公開：
大人の知的好奇心や探究心を満たすとともに、子供たちの教育や指導にも活用できる自然や文化に関する様々な話題を集めて「コラム」として公開する。

ハ）「科学実験」イベントの現地開催：
科学実験を行う機会の少ない離島に出向き、サイエンスキューブ(移動式暗室)を用いて地域密着型の科学実験イベントを行う。

ロ．実施方法：本件の公開に向けて当初から協働して作り上げてきた兵庫教育大学原体験教育研究会に委託して実施する。

②　地球科学の理解促進

身近な科学の面白さや不思議さを伝えるためのイベントを開催し、気象現象や地球科学の理解促進に努める。

イ．実施内容：本会で制作した短編映像「Cubic Earth－もしも地球が立方体だったら－」等を利用したワークショップを開催する。

ロ．ワークショップの開催

イ）開 催 日：２０２１年８月頃　２日間

ロ）対 象 者：小学校高学年～中学生及びその保護者
１６０名程度

ハ）場　　所：港区立みなと科学館（予定）

ニ）講　　師：気象や理科教育の専門家

③　中高生のためのサイエンスメンタープログラム

学校教育の枠にとらわれない高度な専門研究レベルの科学教育のプログラムを実施し、次代の科学・技術を担う人材を育成する。

イ．実施内容：科学に関心を持ち、個人もしくは小グループで科学研究を進めている中学生・高校生（メンティ）に対して、経験豊かな自然科学・応用科学の専門研究者（メンター）から、科学研究の基礎を一定期間学ぶことができる機会を提供する。

ロ．対象件数：２０件程度

ハ．研究期間：原則半年～１年

ニ．研究発表会：年２回、研究発表会を開催する（８月と３月を予定)。

ホ．募集と審査・選考：年間を通して参加希望者を公募し、サイエンスメンター事業委員による審査・選考を行う。

ヘ．そ の 他：研究発表会と併せて、統計や科学研究倫理の講習を行う。

④「Web 版科学体験まつり」の開催

子供たちや親世代への科学実験の機会を容易にし、自然の法則、科学の原理など科学・技術の楽しさや素晴らしさを伝え興味・関心を喚起する目的で、長年にわたって「科学体験まつり」としてイベント開催していたが、近年の Web の普及を利用してオンライン開催する。

イ．実施内容：あたかも科学実験ブースを訪れるかのような実験ができるＷｅｂサイトを製作し、公開する。実験の詳細はテキストで示し、実際の実験・製作には動画を利用し、動画を次々と進めることで全体の実験が完了し、科学実験のブースを訪ねたような臨場感あふれるサイトを構成する。

イ）実験ブース：実験ブースで実施する内容は、デモンストレーションに適したものを２５程度厳選する。

ロ）対 象 者：小・中学生、高校生、一般

ハ）演示講師：「科学体験まつり」当時の演示講師(兵庫教育大学原体験教育研究会メンバー)

ニ）周知活動：本会の Web ページに掲載、さらに「科学実験データベース」にバナーを貼るとともに、各種体験学習系、実験サイトへのバナーを依頼する。さらに、日本理科教育学会、科学教育学会の機関誌にも広告依頼を行い、QR コードを掲載させてもらう。

ロ．実施方法：本件の公開に向けて「科学体験まつり」開催当初から、演示講師として関わりのあった兵庫教育大学原体験教育研究会に委託して実施する。

【笹川科学活性化基金事業】

⑤　生命科学テキスト「人間の生命科学」プロジェクト

現代社会を生きる人間にとって必須の基礎知識になっている生命科学を、従来の教科書とは異なる本会独自の「『人間の生命』を軸にしたスタイル」という視点で制作したテキストを使い、若い世代や一般の方を対象に、生命科学の基礎知識の普及・啓発を行う。

イ．実施内容：

イ）普及活動：テキストの普及・利用拡大を推進するため、Web サイトの改修、広報ツールの配布などを行う。

ロ）国立情報学研究所との共同研究：

国立情報学研究所との共同研究により、テキストの今後の利用や運用等について検討する（２０２０年度からの継続)。

⑥「科学隣接領域の研究」

研究者としての「素養」を育て、総合的な視野を持った「創造的な研究者」への育成を目指す。

イ．実施内容：自然科学の枠を超えた領域の専門家が集まり、宗教、倫理、芸術を切り口に科学研究や研究者について議論し、その成果を講演会や出版によって、研究者や研究者を取り巻く人々に発信する。今年度は「科学と芸術」研究会の取りまとめとなる、講演会と出版を行う。

ロ．実施方法：

イ）「科学と芸術」Ｗｅｂセミナー

昨年度開催予定であったが、コロナ禍により後ろ倒しになり今年度の開催となった。昨年度開催した「科学と芸術」研究会での成果を中心に、研究者が自身の専門分野だけではなく、異分野と融合し、新しい発見に繋がる感性の豊かさや、新しい価値観を取り入れることを目指し、Ｗｅｂセミナーを開催する。

ロ）「科学と芸術」出版

「科学と芸術」Ｗｅｂセミナーの内容を中心とした、『科学と宗教』『科学と倫理』に続く科学隣接領域研究会の三作目となる書籍を出版し、研究会の最後の成果として発信する。

事業費総額：４０，４５０千円（事業費：３０，２７０千円、事業管理費：１０，１８０千円）

【モーターボート競走法制定４０周年記念事業　①～④】

１８，７７０千円

【笹川科学活性化基金事業　⑤⑥】

１１，５００千円